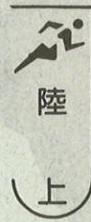




女子走り高 萩原 倉吉 12位



(東北電力ビッグスワン
スタジアム)

女子走り高跳び決勝 上位入賞を目指して跳躍する
萩原くらら=東北電力ビッグスワンスタジアム

国体でリベンジ 萩原

落ちたバーが信じられ
ず、マットの上で一瞬間
まった。選手の控えデ
ントに戻ってもしばらく動
けない。「こんなにあ
けないの?」。女子走
り高跳び決勝で、萩原(倉
吉東)は12位。夏は短
く終わった。
好調だった。1.59か

ら始まった予選はすべて
1回でクリア。助走ス
ピードが速くてコン
ローが必要なくらい、体
が軽い。ふわりと跳
んで、余裕の通過だ
った。
この会場には縁があ
る。中2の全国中学、
3の新潟国体と今回で
3度目。特に国体は1.72

を跳んで少年女子2位と
なり、一躍自分を全国
区にしてくれた。しか
し同時に「70の壁」
をつくった場所でもあ
った。
高校では1.70が越え
られなかった。学年が
上がることに悩みは深
まり、「続けるのに意味
あるのかな」と考
えて寝られなくな
ったことも。
中国高校(6月)で
1.70の壁を越えた。

喜んだのもつかの間、翌
月の国体県選手選考会
では1.60が決勝記録。
トリードマークだった
グヘアをばっさり切
て、ふがない気持ち
を切り替えた。練習以
外にやることはや
って、新潟にいた。
午後からの決勝。1.62、
65は難なくクリア。
1.68は3度目で越
えた。いよいよ1.71。「全

然バーが高く見えなく
て跳べた感覚だった」
が、股関節から上は越
えても足が引掛かっ
た。「今すぐにでも戻
って、もっと跳びたい。
国体に向けてもう一回
頑張りたい」。壁を越
える自分が一番見
たい。次の高さへと移
って続く競技会場を何
度も振り返り、涙声で決
意した。
(中西理恵)